

キヤノンITソリューションズ株式会社

目次

第	1:	章	概要	1
	1-1	I	BizTran とは	2
	1-2		システム仕様	3
		1-2-	-1 システム動作環境	3
		1-2-	-2 変換に関する制約事項	4
	1-3	; 1	製品構成	5
		1-3-		6
第	2	章	インストール	7
	2-1		Windows の設定	8
		2-1-	-1 インストール	8
		2-1-	-2 アンインストール	
	2-2	2	Linux の設定	15
		2-2-		15
		2-2-2	-2 アンインストール	
第	3	章	変換実行	23
第	3 3	章	変換実行 変換処理の流れ	23
第	3 : 3-1	章 3-1-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備	 23 24 25
第	3 3-1	章 3-1- 3-1-;	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備	 23 24 25 25
第	3 : 3-1	章 3-1- 3-1- 3-1-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行	 23 24 25 25 25
第	3 : 3-1	章 3-1- 3-1- 3-1- 3-1-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -4 STEP4 変換結果の参照	 23 24 25 25 25 25
第	3 : 3-1 3-2	章 3-1- 3-1- 3-1- 3-1-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -4 STEP4 変換結果の参照 起動方法	 23 24 2525252525 26
第	3 : 3-1 3-2	章 3-1- 3-1- 3-1- 3-1- 3-1- 3-2-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -4 STEP4 変換結果の参照 起動方法 -1 バッチ起動・シェル起動	23 24 25 25 25 25 25 26 26
第	3 : 3-1 3-2	章 3-1- 3-1- 3-1- 3-1- 3-2- 3-2-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -4 STEP4 変換結果の参照 -4 STEP4 変換結果の参照 -1 バッチ起動・シェル起動 -2 Windows 環境の起動例	23 24 25 25 25 25 26 26 29
第	3 : 3-1 3-2	章 3-1- 3-1- 3-1- 3-1- 3-2- 3-2- 3-2- 3-2-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -4 STEP4 変換結果の参照 起動方法 -1 バッチ起動・シェル起動 -2 Windows 環境の起動例 -3 Linux 環境の起動例	23
第	3 : 3-1 3-2 3-3	章 3-1- 3-1- 3-1- 3-2- 3-2- 3-2-	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -3 STEP4 変換結果の参照 -4 STEP4 変換結果の参照 -1 バッチ起動・シェル起動 -2 Windows 環境の起動例 -3 Linux 環境の起動例	23 24 25 25 25 25 26 26 26 20 21 23
第	3 : 3-1 3-2 3-3	章 3-1 3-1 3-1 3-2 3-2 3-2 3-3 3-3	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -4 STEP4 変換結果の参照 起動方法 -1 バッチ起動・シェル起動 -2 Windows 環境の起動例 -3 Linux 環境の起動例 -3 Linux 環境の起動例	23 24 25 25 25 25 26 26 20 31 33 33
第	3 : 3-1 3-2 3-3	章 3-1 3-1 3-1 3-2 3-2 3-2 3-3 3-3	変換実行 変換処理の流れ -1 STEP1 マッピングファイルの準備 -2 STEP2 入力ファイルの準備 -3 STEP3 変換処理の実行 -3 STEP4 変換結果の参照 起動方法 -1 バッチ起動・シェル起動 -2 Windows 環境の起動例 -3 Linux 環境の起動例	23
第	3 : 3-1 3-2 3-3 3-4	章 3-1- 3-1- 3-1- 3-2- 3-2- 3-3- 3-3- 3-3-	変換処理の流れ	23 24 25 25 25 25 26 26 26 26 26 23 33 33 33 33 33
第	3 : 3-1 3-2 3-3 3-4	章 3-1 3-1 3-1 3-2 3-2 3-2 3-3 3-3 3-3 3-3 3-3 3-3 3-3	変換実行	23 24 25 25 25 25 26 26 26 29 31 33 33 33 33 33 33 33

第	4章	環境設定	
	4-1	Windows の設定	47
	4-1	l-1 使用メモリ設定	47
	4-2	Linux の設定	49
	4-2	2-1 使用メモリ設定	49
第	5章	困ったときには	
	5-1	トラブルシューティング	52
	5-1	-1 トラブルシューティングー覧	
	5-1	I-2 トラブルシューティング詳細	53
	5-2	バージョン・シリアル番号の確認方法	
	5-2	2-1 Windows の確認方法	
	5-2	2-2 Linux の確認方法	
	5-3	お問い合わせについて	60
	5-3	3-1 お問い合わせ方法	60
	5-3	3-2 有償保守サービスとは	60
	5-3	3-3 有償保守サービスの加入方法	60
第	6章	付録	61
	6-1	OS ごとの操作方法	62
	6-1	l-1 コントロールパネル	62
	6-1	l-2 コマンドプロンプト	62

はじめに

この度は『XML 変換ツール(BizTran)』(以降『BizTran』と表記)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本書では、『BizTran』のインストール、機能等について記述しています。

本書及び関係説明書を充分ご理解いただいた後に『BizTran』をお使いください。

本製品は Windows/Linux 双方の環境に対応しております。説明が分岐する部分ではご使用の環境に合わせて参照してください。

以降、『BizTran』は以下のフォルダパスにインストールしたものとして説明します。ご使用の環境に合わせて読み替 えてください。

環境	フォルダパス
Windows	"C:¥NTS¥BizTran"
Linux	"/opt/BizTran"

取扱説明書の表記

本書内において、ボタン名などを以下の記号にて表します。

表記方法	内容
[× × ×]	ボタン、メニュー等のコントロール
" × × × "	フォルダ、ファイルパス
	半角スペース
[x y z]	どれか一つを選択
x x x	コマンド入力の例 ※

※ コマンドの例は PC 上でコピーや貼り付けをすることは可能ですが └┘ (半角スペース)は書き換えて実行してく ださい。

第1章 概要 1





この章では、基本機能や製品構成について説明します。

- BizTran とは 1-1
- システム仕様 1-2
 - 製品構成 1-3

第1章 概要 2

1-1 BizTran とは

『BizTran』とは、マッピング定義情報(以降、マッピングファイル)にもとづいて、データ変換を行なうソフトウェアです。XML データと固定長形式、CSV 形式のデータ間での相互変換が可能です。

1-2 システム仕様

1-2-1 システム動作環境

『BizTran』が適応するシステム動作環境を以下の表に示します。

項	目		内容		
20 회성	Windows (32/64bit)※1	Windows 7、Win Windows Server	dows 8.1、Windows 10、Windows Server 2008 R2、 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016		
	Linux (64bit)※2	Red Hat Enterprise Server 6.8、Red Hat Enterprise Server 6.9、 Red Hat Enterprise Server 7.2			
		VMware ESXi	Ver6.0、Ver6.5		
, 対応仮想環境 ※3		Hyper-V	Windows Server 2008R2 Windows Server 2012 Windows Server 2012R2 Windows Server 2016		
		ハードディスク	1GB 以上必須 設定の内容、データ量により異なります		
ハードウェアス	ペック	DVD ドライブ	インストール時に必要		
		メモリ	2GB 以上推奨		
		ディスプレイ	1024×768 ピクセル以上の解像度		
ソフトウェア		OpenJDK 1.8			

- ※1 日本語版 OS のみが対象となります。
 Windows Server OS において、Server Core インストールオプションでの動作については保証いたしません。(Server Core インストールオプションについての詳細は、Microsoft のサイトを参照してください。)
 x86 系 CPU 搭載のコンピュータ上で動作する OS のみ対象となります。
 Windows 7 の XP モードでの動作は対象外となります。
- ※2 Linux 環境では 32bit 版に対応していません。 日本語版 OS のみが対象となります。
- ※3 ゲスト OS は、本製品の対応 OS であり、かつ仮想化ソフトが保証する OS をご利用ください。(仮想化ソフトが保証する OS については仮想化ソフト提供元のサイトを参照してください。) ゲスト OS が稼働状態のままホスト機を切り替える機能には非対応となります。

注意

- 『BizTran』は、OS が快適に動作する環境で使用されることを、前提にしています。動作が不安定なパソコン での使用は、トラブルの原因となりますので、避けてください。
- 対応する環境の最新情報については、本製品のホームページを参照してください。

第1章 概要 4

1-2-2 変換に関する制約事項

『BizTran』で取り扱える XML に関して、以下のような制約があります。

■ タグの出現回数

XML Schema による定義で、タグの最大出現回数(maxOccurs)が設定されていない、もしくは無制限である (unbounded)場合、最大出現回数が10,000回として変換を行います。そのため、タグの出現回数が10,000回より大きなXMLを入力、もしくは出力しようとすると、変換エラーとなります。

■ 文字コード

変換を行う XML(CSV 形式、固定長形式)データの文字コードは、マッピングファイルで指定されている文字コー ドを使用してください。XML データは XML 宣言で文字コードを指定できますが、『BizTran』は参照しません。

■ XML スキーマの参照

schemaLocation 要素で外部の XML スキーマを参照している場合、その XML スキーマを取得できないと、XML 検証 を行うことができません。

1-3 製品構成

『BizTran』には、下記のものが含まれます。

製	品構成
マスタ・ディスク(DVD-ROM) ・『XML 変換ツール(BizTran)』	1 枚
取扱説明書 • 取扱説明書 • 移行手順書	2 ファイル 『XML 変換ツール(BizTran)』のマスタ・ディス ク内に PDF 形式で含まれます。
変換設定マスタ・ディスク(DVD-ROM) ・変換設定	1 枚 変換設定の取扱説明書は、変換設定のマスタ・デ ィスク内に PDF 形式で含まれます。

⚠ 注意

● マスタ・ディスクはお客様が責任を持って管理してください。

● マスタ・ディスクの紛失や破損の際に再提供などの対応はいたしかねます。

第1章 概要 6

1-3-1 フォルダ構成

『BizTran』インストール後のフォルダ構成は以下のとおりです。 網掛けのフォルダ・ファイルは、変換実行時に作成されます。



第2章 インストール 7



インストール

この章では、インストールとアンインストールについて説明します。 Windows 環境の場合は「2-1Windows の設定」を参照してください。 Linux 環境の場合は「2-2Linux の設定」を参照してください。

Windows の設定 2-1

Linuxの設定 2-2

第2章 インストール 8

2-1 Windows の設定

2-1-1 インストール

『BizTran』のインストールは以下の手順で行います。

/ 注意

- 実行中のプログラムがあれば、必ず終了させてください。
- ●インストールは、管理者権限を持ったユーザでログインして行ってください。
- ●ホームページ上に修正パッチがリリースされている場合があります。 インストールが完了しましたら、サポートサイトへアクセスして、修正パッチのリリース状況を確認してください。修正パッチがある場合はダウンロードし、付属の手順書に従って修正パッチを適用してください。
- サポートサイトの URL については、保守サービスパックのライセンス証書をご確認ください。 なおサポートサイトへは、保守サービスパック加入後に発行されるログイン ID とパスワードが必要となりま す。

B HINT

●ここでは、光学ドライブのドライブ名を"Z"とします。ご使用の環境に合わせて読み替えてください。

● 『BizTran』で複数同時変換を行う場合、ご使用の環境により 64bit 版の方が 32bit 版よりも変換処理時間がかか る場合があります。このため、どちらのマスタが業務に適しているか事前に稼動環境にて検証されることをお 勧めします。

マスタ・ディスクを光学ドライブにセットし、エクスプローラでマスタ・ディスクを開いてください。マスタ・ディ スク内の以下のファイルを右クリックして、【管理者として実行(A)】をクリックしてください。インストーラが起動 します。

・32bit 版をインストールする場合…"Z:¥BIZTRAN_32bit¥Disk1¥InstData¥VM¥install.exe"

・64bit 版をインストールする場合…"Z:¥BIZTRAN_64bit¥Disk1¥InstData¥VM¥install.exe"

「ユーザアカウント制御」のダイアログが表示された場合は、【続行(C)】(または【はい(Y)】)をクリックしてください。

第2章 インストール 9

I.開始画面が表示されます。
 【次へ(N)】ボタンをクリックしてください。

🖳 BizTran	
	開始画面
→ 開始画面 インストール フォルダを	InstallAnywhere の指示に従って操作していくと、BizTran を簡単にインストールできます。
 シリアル番号を入力 インストール前の要約 	このインストールを続行する前に、すべてのブログラムを終了するこ とをお勧めします。
● Installing ● インストール完了	[次へ] ボタンをクリックすると、次の画面へ進みます。前の画面で指 定した内容を変更する場合は、[戻る] ボタンをクリックしてください。
	[キャンセル] ボタンをクリックすると、いつでもインストールをキャ ンセルできます。
InstallAnywhere by Macrovision ー キャンセル ©	戻る (P) 次へ (U)

🖳 BizTran	
	インストール フォルダを選択
 ● 開始画面 ● インストール フォルダを ● シリアル番号を入力 ● インストール前の要約 ● Installing ● インストール完了 	インストール場所を指定してください。 (W) C:¥NTS¥BizTran デフォルトのフォルダに戻す (R) 選択 (Q)
InstallAnywhere by Macrovision - キャンセル (C)	戻る (P) 次へ (N)

 インストール先を変 更する場合は、
 【選択(O)】ボタンをク リックしてフォルダを選 択してください。
 【次へ(N)】ボタンをクリ ックしてください。



第2章 インストール 10 3. シリアル番号を入力 して、【次へ(N)】ボタン をクリックしてくださ

XML 変換ツール(BizTran)



4. 【インストール(I)】 ボタンをクリックしてく ださい。

第2章 インストール 11

5. インストールが始ま ります。 終了するまでお待ちくだ さい。





 インストールが終了 しました。
 【完了(D)】ボタンをクリ ックしてください。

第2章 インストール 12

2-1-2 アンインストール

『BizTran』のアンインストールは以下の手順で行います。

- Windows の [コントロールパネル] [プログラムと機能]の順に操作し、「プログラムと機能」の画面を 表示します。
- ② 現在インストールされているプログラムの一覧から"BizTran"を選択し、【アンインストールと変更】をクリックしてください。「ユーザアカウント制御」のダイアログが表示された場合は、【続行(C)】(または【はい(Y)】)をクリックしてください。

Windows の操作は OS の種類によって異なります。操作が不明な場合は「6-1OS ごとの操作方法」を参照してください。



● アンインストールは、管理者権限のあるユーザでログインして行ってください。

XML	変換ツー	ル(Biz	zTran)
-----	------	-------	--------

第2章 インストール 13



🖫 Uninstall BizTran	
	アンインストール (U) BizTran
🜒 開始画面	しばらくお待ちください。 次の機能を削除しています…
\varTheta アンインストール中	ファイル
● アンインストール完了	LaunchAnywhere
	フォルダ
	アンインストール中 passfile
InstallAnywhere by Macrovision ー キャンセル (<u>C</u>)	

 アンインストールが 始まります。
 終了するまでお待ちくだ さい。

		第2章 インストール 14
🐙 Uninstall BizTran	<mark>-</mark> 回× アンインストール完了	3. アンインストールが 終了しました。 【完了(D)】ボタンをクリ
 ♥ 開始画面 ♥ アンインストール中 ♥ アンインストール完了 	すべての項目が正常にアンインストールされました。	ックしてください。
InstallAnywhere by Macrovision - キャンセル (C)	戻る (P) 売7 (D)	

第2章 インストール 15

2-2 Linux の設定

2-2-1 インストール

『BizTran』のインストールは以下の手順で行います。

\land 注意

- 実行中のプログラムがあれば、必ず終了させてください。
- インストールは、管理者権限を持ったユーザでログインして行ってください。
- ●ホームページ上に修正パッチがリリースされている場合があります。 インストールが完了しましたら、サポートサイトヘアクセスして、修正パッチのリリース状況を確認してください。修正パッチがある場合はダウンロードし、付属の手順書に従って修正パッチを適用してください。
- サポートサイトの URL については、保守サービスパックのライセンス証書をご確認ください。 なおサポートサイトへは、保守サービスパック加入後に発行されるログイン ID とパスワードが必要となりま す。

コンソールを開き、以下のコマンドによりディレクトリ移動及びシェルを実行することでインストールが開始されます。

cd \sqcup /media/dvd/BizTran/BIZTRAN_64bit/Disk1/InstData/VM sh \sqcup install.bin

🕑 HINT

- 上記のコマンドの例は PC 上でコピーや貼り付けをすることは可能ですが └┘ (半角スペース)は書き換えて実行 してください。
- ここでは、DVD ドライブが"/media/dvd"にマウントされたこととします。ご使用の環境に合わせて読み替えてく ださい。

第2章 インストール 16 1. 開始画面が表示され root@vm617:~/Linux/BIZTRAN_64bit/Disk1/InstData/VM _ D X ます。 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) 【ENTER】キーを押して [root@vm617 VM]# sh install.bin [root@vmol/ vhj# sii instaction]. インストールの準備 |インストーラー アーカイブから JRE を抽出しています... ください。 コンストーラー アーカイブから TKE を抽出しています... JRE を展開しています... インストーラー アーカイブからインストール リソースを抽出しています... このシステム環境のインストーラーを構成しています... インストーラーを起動しています... XML変換ツール(BizTran) (InstallAnywhere で作成) コンソール モード インストールの準備中... -----開始画面 InstallAnywhereの指示に従って操作していくと、 XML変換ツール(BizTran)を簡単にインストールできます。 このインストールを実行する前に、 すべてのプログラムを終了することをお勧めします。 続行するには ENTER キーを押します: 2. 【ENTER】キーを押 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) すことでデフォルトの "/opt/BizTran"にインスト ールされます。 開始画面 インストール先を変更す InstallAnywhereの指示に従って操作していくと、 XML変換ツール(BizTran)を簡単にインストールできます。 る場合は、フォルダの絶 対パスを入力してくださ このインストールを実行する前に、 すべてのプログラムを終了することをお勧めします。 い。 尚、存在しないフォルダ が指定された場合は、新 続行するには ENTER キーを押します: 規にフォルダが作成され ます。 インストールフォルダを選択 ※本書ではデフォルトの インストールフォルダに インストール場所を指定してください。 インストールするものと します。 デフォルトのインストール フォルダー: /opt/BizTran 絶対パスを入力するか、ENTER キーを押してデフォルトを使用してください。 :

XML 変換ツール(BizTran)



● フォルダ名には半角英数字と"_"(アンダーバー)以外の文字を使用しないでください。

第2章 インストール 17

3. シリアル番号を入力し

て、【ENTER】キーを押

※シリアル番号は図中の網 掛け部分に表示されます。

してください。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) このコーノストールを夫1.J y つ P に、 すべてのプログラムを終了することをお勧めします。

続行するには ENTER キーを押します:

インストール場所を指定してください。

デフォルトのインストール フォルダー: /opt/BizTran

絶対パスを入力するか、ENTER キーを押してデフォルトを使用してください。 :

シリアル番号を入力

シリアル番号を入力してください。 入力後、ENTERキーを押してください。

シリアル番号(デフォルト:):

入カエラー -----シリアル番号が正しくありません。 正しいシリアル番号を入力してください。 以下の内容を使用する場合は、ENTER キーを押してください。 (OK): ※シリアル番号を間違えた場合
 左図のエラーが表示されます。
 【ENTER】キーを押すことでシリアル番号を
 入力の項目へ戻ります。
 シリアル番号を確認の上、正しい値を入力して
 ください。

第2章 インストール 18 4. 【ENTER】キーを押 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) してください。 シリアル番号を入力 インストールを中断する シリアル番号を入力してください。 入力後、ENTERキーを押してください。 場合は、【Ctrl】キー+ "C"を同時に押してくださ シリアル番号(デフォルト:): い。 インストール前の要約 操作を続ける前に、以下の内容を確認してください。 製品名: XML変換ツール (BizTran) インストール フォルダー: /opt/BizTran Java VM のインストール フォルダー: /opt/BizTran/jre_IA ディスク容量情報 (インストール先): 必要なディスク容量: 435,099,778 バイト 使用可能なディスク容量: 20,344,725,504 バイト 続行するには ENTER キーを押します: 5. インストールが始ま ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) ります。 インストール前の要約 終了するまでお待ちくだ さい。 操作を続ける前に、以下の内容を確認してください。 製品名: XML変換ツール (BizTran) インストール フォルダー: /opt/BizTran Java VM のインストール フォルダー: /opt/BizTran/jre_IA ディスク容量情報 (インストール先): 必要なディスク容量: 435,099,778 バイト 使用可能なディスク容量: 20,344,725,504 バイト 続行するには ENTER キーを押します: インストール中...

XML 変換ツール(BizTran)

第2章 インストール 19 6. 【ENTER】キーを押 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) してください。 /opt/BizTran Java VM のインストール フォルダー: /opt/BizTran/jre_IA インストールが終了しま した。 ディスク容量情報(インストール先): 必要なディスク容量: 435,099,778 パイト 使用可能なディスク容量: 20,344,725,504 バイト 続行するには ENTER キーを押します: -----インストール中... インストール完了 XML変換ツール (BizTran) が次の場所にインストールされました。 /opt/BizTran ENTER キーを押すと、インストーラーが終了します:

XML 変換ツール(BizTran)

第2章 インストール 20

2-2-2 アンインストール

『BizTran』のアンインストールは以下の手順で行います。

コンソールを開き、以下のコマンドによりディレクトリ移動及びシェルを実行することでアンインストールが開始されます。

cd u /opt/BizTran/Uninstall_BizTran sh u Uninstall

⚠ 注意

●『BizTran』のアンインストールをする際に一部削除されないファイルが存在します。アンインストール後にインストールフォルダを手動で削除してください。

● アンインストールは、管理者権限のあるユーザでログインして行ってください。

🕑 HINT

● 上記のコマンドの例は PC 上でコピーや貼り付けをすることは可能ですが └┘ (半角スペース)は書き換えて実行 してください。

第2章 インストール 21 1. 開始画面が表示され root@vm617:/opt/BizTran/Uninstall_BizTran _ 0 X ます。 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) 【ENTER】 キーまたは [root@vm617 Uninstall_BizTran]# sh Uninstall "1"を入力して XML変換ツール(BizTran) (InstallAnywhere で作成) 【ENTER】キーを押して ください。 コンソール モード アンインストールの準備中... _____ XML変換ツール (BizTran) をアンインストール 今から次の製品をアンインストールします... XML変換ツール(BizTran) この操作を行うと、InstallAnywhere によってインストールされたすべての機能が削除されます。 インストール後に作成されたファイルやフォルダは削除さ れません。 ->1- OK 2- キャンセル 選択する項目の番号を入力するか、 デフォルトを使用する場合は ENTER キーを押してください: ▌ 2. アンインストールが root@vm617:/opt/BizTran/Uninstall_BizTran _ 0 × 始まります。 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H) 終了するまでお待ちくだ XML変換ツール (BizTran) をアンインストール さい。 今から次の製品をアンインストールします... XML変換ツール(BizTran) この操作を行うと、 InstallAnywhere によってインストールされたすべての機能が削除されます。 インストール後に作成されたファイルやフォルダは削除さ れません。 ->1- OK 2- キャンセル 選択する項目の番号を入力するか、 デフォルトを使用する場合は ENTER キーを押してください:1 アンインストール中... ...* ***** ***** ****** *****

XML 変換ツール(BizTran)

第2章 インストール 22

3. アンインストールが 終了しました。

				root@vm6	17:/opt/BizTran/Uninstall_BizTran	_ 0	×
ファイル(F)	編集(E)	表示(V)	検索(S)	端末(T)	ヘルプ(H)		
*******	******	******	*				
******	******	******	*				- 1
*******	******	******	*				- 1
*******	******	******					- 1
*							- 1
******	******	******	*				- 1
*******	******	******	*				- 1
*******	******	******	*				- 1
*******	******	******					- 1
*							- 1
*******		******	+				- 1
********	*******	*******	*				- 1
******	*******	******	*				- 1
*******	*******	******					- 1
*							- 1
r							- 1
*******	******	******	*				- 1
*******	******	******	*				- 1
*******	******	******	*				- 1
*******	******	******	*				- 1
							- 1
						1	- 1
アンインフ	ь — Ш.5	 ≥ 7					- 1
	-						- 1
すべての項	目が正常	常にアン	インスト	ールさ	れました。		- 1
no at a um f	17 Uning	+-11 Pi	-T				

第3章 変換実行 23



変換実行

この章では、変換実行について説明します。

- 変換処理の流れ 3-1
 - 起動方法 3-2
- 変換結果とログファイル 3-3
 - エラーコード 3-4

第3章 変換実行 24

3-1 変換処理の流れ

変換処理の流れを以下の図に示します。

STEP 1 マッピングファイルの準備



第3章 変換実行 25

3-1-1 STEP1 マッピングファイルの準備

マッピングファイルは、入力側と出力側のファイル構造の定義と、どのように変換するかを記述したファイルです。 変換処理では、マッピングファイルに設定された内容に従って変換が行われます。

マッピングファイルは変換設定マスタ・ディスクの中に含まれています。

3-1-2 STEP2 入力ファイルの準備

変換元となる入力ファイルを用意します。用意する入力ファイルは STEP1 で設定した入力側のファイル構造に従っ ている必要があります。

同一の変換を行う場合は、1回の起動で複数ファイルの変換を行うことも可能です。その場合は、1つのフォルダに 全ての入力ファイルを保存してください。

3-1-3 STEP3 変換処理の実行

STEP1 のマッピングファイル、及び、STEP2 の入力ファイルを使用して、実際の変換処理を実行します。変換処理 が正常に終了すると、出力ファイルが作成されます。

『BizTran』の変換処理は、以下のファイルを実行することで行います。

環境	は 種類 ファイルパス	
Windows	バッチファイル	"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin¥Mapping2.bat"
Linux	シェルファイル	"/opt/BizTran/Mapping/bin/Mapping2.sh"

引数として、「マッピングファイル」「入力ファイル」「出力ファイル」を指定する必要があります。また、複数ファ イルの変換指定や変換結果ログファイルの出力先等をオプションとして指定することが可能です。

詳細は、「3-2-1 バッチ起動・シェル起動」を参照してください。

3-1-4 STEP4 変換結果の参照

『BizTran』では、変換結果をログファイルに出力します。

ログファイルには、特定のフォルダに出力する累積ログファイルと、オプションパラメータによって、指定されたフ ァイルに出力する処理別ログファイルがあります。詳細は、「3-3 変換結果とログファイル」を参照してください。

また、処理結果をバッチファイルまたはシェルファイルのリターンコードとして返します。返す値の詳細は「3-4 エ ラーコード」を参照してください。

3-2 起動方法

3-2-1 バッチ起動・シェル起動

ご使用の環境に合わせて、下記のファイルとパラメータを指定して起動することで、指定された設定情報の変換を実行します。

環境	種類	ファイルパス	
Windows	バッチファイル	"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin¥Mapping2.bat"	
Linux	シェルファイル	"/opt/BizTran/Mapping/bin/Mapping2.sh"	

パラメータには必ず指定が必要な「必須パラメータ」と、必要に応じて指定する「オプションパラメータ」があります。

以下にパラメータを示します。

表 3-1 必須パラメータ

パラメータ名称	パラメータ	説明
マッピング ファイル指定	/M: "XXX"	マッピングファイルを指定します。
インプット ファイル指定	/I: "XXX"	変換元となる入力ファイルを指定します。(※1)
アウトプット ファイル指定	[/O /OP]: "XXX"	変換先となる出力ファイルを指定します。(※1) /O を指定した場合は、同名のファイルが存在した際に上書 きします。 /OP を指定した場合は、同名のファイルが存在した際に追 記します。CSV または固定長への変換時のみ指定可能で す。(XML 変換時に指定した場合は変換エラーになりま す)
分割プロパティ ファイル指定	/D: "XXX"	分割プロパティファイルを指定します。

※1 オプションパラメータのフォルダオプション(/F)を指定している場合は、フォルダを指定してください。

\land 注意

● マッピングファイル、入力ファイル、出力ファイル、分割プロパティファイルは、ダブルクォート("")で囲んで 指定してください。

B HINT

●分割プロパティファイルとは、変換元ファイルが大容量の場合でもメモリ不足にならないようにする仕組みで、内部では以下の動作が行われます。

- ① 変換元ファイルを分割(ファイルのサイズが小さい複数のファイルに分割)
- ② 分割してできた複数のファイルをそれぞれ変換
- ③ 変換結果を結合し、1つのファイルに出力

第3章 変換実行 27

表 3-2 オプションパラメータ

パラメータ名称	パラメータ	説明
フォルダ オプション	/F	複数のファイルを同時に変換する場合に、インプットファ イル指定と組み合わせて指定します。 フォルダオプションを指定する場合は、インプットファイ ル指定にファイル名ではなく、フォルダ名を指定する必要 があります。 入力ファイルの中に変換エラーとなるファイルがあった場 合でも、全てのファイルの変換を試み、正常に変換できた もののみ出力ファイルを作成します。その場合のエラーコ ード、ログファイルについては、「3-3 変換結果とログフ ァイル」を参照してください。
処理別ログファイル オプション	[/L /LP]:"XXX"	処理別ログファイルを指定します。 /Lを指定した場合は、同名のファイルが存在した際に上書 きし、過去のログファイルは失われます。 /LPを指定した場合は、同名のファイルが存在した際に過 去のログファイルに追記します。 処理別ログファイルの内容は、累積ログファイルの内容と 同じです。ログファイルの内容については、「3-3-2 ログ ファイル」を参照してください。
変換補助ファイル オプション	/T:"XXX"	変換補助ファイルを指定します。 変換補助ファイルオプションは過去(Ver4.4.4 以前)のバー ジョンとの互換性のために残しています。新規に使用する ことはありません。
XML 検証 オプション	/V:[YES NO]	XMLの検証を行うか否かを指定します。 パラメータを指定しない場合はマッピングファイルの設定 に従います。
小数部ゼロ時出力 オプション	/AD	固定長から XML への変換の際に、小数部がゼロの場合で も小数部を出力する場合に指定します。 固定長から XML への変換以外で指定された場合はエラー になります。
バージョン表示 オプション	/VERSION	バージョン・シリアル番号を表示します。 バージョン表示オプションを使用する必要はありません。 専用のバッチ・シェルを用意しています。「5-2 バージョ ン・シリアル番号の確認方法」を参照してください。

第3章 変換実行 28



🕑 HINT

●小数部ゼロ時出力オプションの有無による、変換結果を以下に示します。 入力データとして、フォーマット(整数部4桁、小数部2桁)、値(10.00)を使用します。

変換パターン (入力→出力)	小数部ゼロ時出力オプション	結果
CSV→XML	オプション指定不可	10.00
	オプション指定あり	10.00
回定丧→XIML	オプション指定なし	10
XML→CSV	オプション指定不可	10.00
XML→固定長	オプション指定不可	1000

3-2-2 Windows 環境の起動例

Windows 環境で変換実行する際のバッチ起動の例を以下に示します。バッチ起動の際は改行を含めず1行で入力してください。

例 1) 流通 BMS 基本形 1.3 の 1 つの発注データを XML から CSV へ変換し、処理別ログは上書きする。

C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin¥Mapping2.bat ロ /M:"C:¥NTS¥BizTran¥secondGenEDI¥1.3.1¥Order¥Order_XMLtoCSV_Ver1.3.1.map" ロ /I:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥input¥入カファイル.xml" ロ /O:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥output¥出力ファイル.csv" ロ /D:"C:¥NTS¥BizTran¥SecondGenEDI¥1.3.1¥Order¥Order_XMLtoCSV_Ver1.3.1.div" ロ /L:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥usrLog¥translate.log"

例 2) 流通 BMS 基本形 1.3 の複数の出荷データを CSV から XML へ変換し、処理別ログは追記する。

C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin¥Mapping2.bat u /M:"C:¥NTS¥BizTran¥secondGenEDI¥1.3.1¥ShipmentNotification¥ShipmentNotification_CSVtoXML_Ve r1.3.1.map" u /I:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥input" u /O:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥output" u /D:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥output" u /LP:"C:¥NTS¥BizTran¥SecondGenEDI¥1.3.1¥Order¥Order_XMLtoCSV_Ver1.3.1.div" u /LP:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥usrLog¥translate.log" u /F

例 3) 流通 BMS 百貨店 2.1 の 1 つの発注データを出力ファイルは追記し、XML 検証は行わないで XML から固定長へ変 換する。

C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin¥Mapping2.bat ロ /M:"C:¥NTS¥BizTran¥secondGenEDI¥D2.1.1¥Purchase_Order¥Purchase_Order_XMLtoFIX_VerD2.1.1 .map" ロ /I:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥input¥入力ファイル.xml" ロ /OP:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥output¥出力ファイル.txt" ロ /D:"C:¥NTS¥BizTran¥secondGenEDI¥D2.1.1¥Purchase_Order¥Purchase_Order_XMLtoFIX_VerD2.1.1. div" ロ /V:NO

例 4) 流通 BMS 百貨店 2.1 の 1 つの入荷予定データを小数部がゼロの時は小数点以下の値を出力し、固定長から XML へ変換する。

 $\label{eq:c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c:http://c.http://$

/I:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥input¥入力ファイル.txt" ⊔

/O:"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥output¥出力ファイル.xml" u

/D:"C:¥NTS¥BizTran¥secondGenEDI¥D2.1.1¥Purchase_ShipmentNotification¥Purchase_ShipmentNotification_FIXtoXML_VerD2.1.1.div" □ /AD

第3章 変換実行 30

例 5) 使用している『BizTran』のバージョン及びシリアル番号を確認する。

C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin¥MappingVersion.bat



● 上記のコマンドの例は PC 上でコピーや貼り付けをすることは可能ですが └┘ (半角スペース)は書き換えて実行 してください。

3-2-3 Linux 環境の起動例

Linux 環境で変換実行する際のシェル起動の例を以下に示します。シェル起動の際は改行を含めず1行で入力してください。

例 1) 流通 BMS 基本形 1.3 の 1 つの発注データを XML から CSV へ変換し、処理別ログは上書きする。

/opt/BizTran/Mapping/bin/Mapping2.sh ロ /M:"/opt/BizTran/secondGenEDI/1.3.1/Order/Order_XMLtoCSV_Ver1.3.1.map" ロ /I:"/opt/BizTran/Mapping/input/入力ファイル.xml" ロ /O:"/opt/BizTran/Mapping/output/出力ファイル.csv" ロ /D:"/opt/BizTran/secondGenEDI/1.3.1/Order/Order_XMLtoCSV_Ver1.3.1.div" ロ /L:"/opt/BizTran/Mapping/usrLog/translate.log"

例 2) 流通 BMS 基本形 1.3 の複数の出荷データを CSV から XML へ変換し、処理別ログは追記する。

/opt/BizTran/Mapping/bin/Mapping2.sh u /M:"/opt/BizTran/secondGenEDI/1.3.1/ShipmentNotification/ShipmentNotification_CSVtoXML_Ver1.3.1. map" u /I:"/opt/BizTran/Mapping/input" u /O:"/opt/BizTran/Mapping/output" u /D:"/opt/BizTran/secondGenEDI/1.3.1/Order/Order_XMLtoCSV_Ver1.3.1.div" u /LP:"/opt/BizTran/Mapping/usrLog/translate.log" u /F

例 3) 流通 BMS 百貨店 2.1 の 1 つの発注データを出力ファイルは追記し、XML 検証は行わないで XML から固定長へ変 換する。

/opt/BizTran/Mapping/bin/Mapping2.sh ー /M:"/opt/BizTran/secondGenEDI/D2.1.1/Purchase_Order/Purchase_Order_XMLtoFIX_VerD2.1.1.map" L 」 /I:"/opt/BizTran/Mapping/input/入力ファイル.xml" ー /OP:"/opt/BizTran/Mapping/output/出力ファイル.txt" ー /D:"/opt/BizTran/secondGenEDI/D2.1.1/Purchase_Order/Purchase_Order_XMLtoFIX_VerD2.1.1.div" ー /V:NO

例 4) 流通 BMS 百貨店 2.1 の 1 つの入荷予定データを小数部がゼロの時は小数点以下の値を出力し、固定長から XML へ変換する。

/opt/BizTran/Mapping/bin/Mapping2.sh ロ /M:"/opt/BizTran/secondGenEDI/D2.1.1/Purchase_ShipmentNotification/Purchase_ShipmentNotification _FIXtoXML_VerD2.1.1.map" ロ /I:"/opt/BizTran/Mapping/input/入力ファイル.txt" ロ /O:"/opt/BizTran/Mapping/output/出力ファイル.xml" ロ /D:"/opt/BizTran/secondGenEDI/D2.1.1/Purchase_ShipmentNotification/Purchase_ShipmentNotification FIXtoXML_VerD2.1.1.div" ロ /AD

第3章 変換実行 32

例 5) 使用している『BizTran』のバージョン及びシリアル番号を確認する。

/opt/BizTran/Mapping/bin/MappingVersion.sh



● 上記のコマンドの例は PC 上でコピーや貼り付けをすることは可能ですが └┘ (半角スペース)は書き換えて実行 してください。

第3章 変換実行 33

3-3 変換結果とログファイル

3-3-1 変換結果

『BizTran』では、変換の結果をバッチファイルまたはシェルファイルのリターンコードと、ログファイルに出力します。

複数ファイル変換で異常が発生した場合は、最初に起きた異常に対応するエラーコードがファイルのリターンコード として返されます。

発生したエラーの内容を全て確認したい場合は、ログファイルの内容を確認してください。

3-3-2 ログファイル

『BizTran』では標準で変換処理の結果をログファイルとして出力します。

ログファイルには、累積ログファイルと処理別ログファイルの2種類が存在します。これらのログファイルに出力される内容は、同一です。

ログファイルの種類	概要
累積ログファイル	『BizTran』が標準で出力するログファイルです。
処理別ログファイル	オプションパラメータで指定した場合のみ出力されるログファイルです。

出力されるログファイルの情報を、以下に示します。

表 3-3 ログファイル情報

項目		累積ログファイル	処理別ログファイル	
出力場所 Windows "C:¥NTS¥BizTran¥Map		"C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥Log"	パニュータの指字による	
	Linux	"/opt/BizTran/Mapping/Log"	ハラメーダの相走による	
ファイル名		[OK NG]_YYYYMMDDhhmmssSSS_{プロセス ID}.txt ※1	パラメータの指定による	
出力タイミング		常に出力	パラメータ指定時に出力	
最大フ	アイル数	999 ※2	特になし	

※1 ファイル名の先頭に、正常終了時には OK、異常発生時には NG がつきます。
 "YYYYMDDhhmmssSSS"は、変換開始時の年月日時分秒ミリ秒を表します。

※2 ファイル数が 999 をこえた場合は、更新日付の古い方から順に削除されます。

第3章 変換実行 35

ログファイルに出力される内容は以下のとおりです。

項目	内容
処理日時	処理を終了した時間
処理結果	正常終了、または異常終了
終了コード	正常終了時は0、異常終了時はエラーコード
マッピングファイル	指定されたマッピングファイル名
入力ファイル	指定された入力ファイル名
分割プロパティファイル	指定された分割プロパティファイル名
出力ファイル	指定された出力ファイル名
分割変換時入力ファイル	分割変換時に使用される入力ファイル
分割変換時出力ファイル	分割変換時に使用される出力ファイル
メッセージ	処理結果のメッセージ

表 3-4 ログ内容

複数ファイルの変換を行った場合は、1つのログファイルに変換を試みたファイルの数だけログが出力されます。

第3章 変換実行 36

以下は、ログファイル(Windows)の内容の例です。

例1) 正常終了した場合のログ

終了コード	: 0
マッピングファイル	: C:¥NTS¥BizTran¥Mapping_CSVtoXML.map
入力ファイル	: C:¥NTS¥BizTran¥data.csv
変換補助ファイル	:
分割プロパティファイル	: C:¥NTS¥BizTran¥devide.properties
出力ファイル	: C:¥NTS¥BizTran¥data.xml
分割変換時入力ファイル	:
分割変換時出力ファイル	:
パラメータ	:
メッセージ	: 正常終了しました。

例2) 異常終了した場合のログ

Biz Tran [2006/11/13 1	6:19:30] <異常終了>
 終了コード	: 5002
マッピングファイル	: C:¥NTS¥BizTran¥Mapping_CSVtoXML.map
入力ファイル	: C:¥NTS¥BizTran¥data2.csv
変換補助ファイル	:
分割プロパティファイル	:
出力ファイル	: C:¥NTS¥BizTran¥data2.xml
分割変換時入力ファイル	:
分割変換時出力ファイル	:
パラメータ	:
メッセージ	: 出力 XML のスキーマチェックに失敗しました。
	4 行目 cvc-length-valid: Value 'abcdefg' with length = '7' is not facet-
valid with respect to length '5'.	
	4 行目 cvc-type.3.1.3: The value 'abcdefg' of element 'length' is not
valid.	
/alid.	

第3章 変換実行 37

以下は、ログファイル(Linux)の内容の例です。

例1) 正常終了した場合のログ

終了コード	: 0
マッピングファイル	: /opt/BizTran/Mapping_CSVtoXML.map
入力ファイル	: /opt/BizTran¥data.csv
変換補助ファイル	:
分割プロパティファイル	: /opt/BizTran/devide.properties
出力ファイル	: /opt/BizTran/data.xml
分割変換時入力ファイル	:
分割変換時出力ファイル	:
パラメータ	:
メッセージ	: 正常終了しました。

例2) 異常終了した場合のログ

Biz Tran [2006/11/13 ⁻	16:19:30] <異常終了>
 終了コード	: 31
マッピングファイル	: /opt/BizTran/Mapping_CSVtoXML.map
入力ファイル	: /opt/BizTran/data2.csv
変換補助ファイル	:
分割プロパティファイル	:
出力ファイル	: /opt/BizTran/data2.xml
分割変換時入力ファイル	:
分割変換時出力ファイル	:
パラメータ	:
メッセージ	:出力 XML のスキーマチェックに失敗しました。
	4 行目 cvc-length-valid: Value 'abcdefg' with length = '7' is not facet-
lid with respect to length '5'.	
	4 行目 cvc-type.3.1.3: The value 'abcdefg' of element 'length' is not
lid.	

第3章 変換実行 38

3-4 エラーコード

3-4-1 エラーコード一覧

『BizTran』では変換の結果をリターンコードとして返します。

エラーが発生した場合は、リターンコードに0以外の数値をセットし、エラーコードとします。

エラーコードの値は Windows 環境と Linux 環境で異なるのでご注意ください。

エラーコードの一覧を下記に示します。

発生した異常の原因と対処方法については、「3-4-2 エラーコード詳細」を参照してください。

分類	⊐-⊦	:	意味	項番
	Windows	Linux		
正常	0	0	正常終了	_
passfile エラー	1001	1	passfile が存在しない、または読み込みができない	1
	1002	2	passfile の記述内容に誤りがある	2
引数エラー	2001	3	マッピングファイルが指定されていない	3
	2002	4	入力ファイル、またはフォルダが指定されていない	4
	2003	5	入力ファイルにフォルダが指定されている	5
	2004	6	入力フォルダにファイルが指定されている、またはフ ォルダが存在しない	6
	2005	7	出力ファイル、またはフォルダが指定されていない	7
	2006	8	出力ファイルにフォルダが指定されている	8
	2007	9	出力フォルダにファイルが指定されている、またはフ ォルダが存在しない	9
	2008	10	バージョン表示オプションを指定時に、他のオプショ ンを指定している	10
	2009	11	処理別ログファイルにフォルダが指定されている	11
	2010	12	処理別ログファイルが指定されてない	12
	2011	13	引数の指定方法に誤りがある	13
	2012	14	マッピングファイルが複数指定されている	14
	2013	15	入力ファイル、またはフォルダが複数指定されている	15
	2014	16	出力ファイル、またはフォルダが複数指定されている	16
	2015	17	処理別ログファイルが複数指定されている	17
	2019	21	XML 検証オプションの指定が異常	18
	2020	22	XML 検証オプションが複数指定されている	19
	2021	34	分割プロパティファイルが指定されていない	20
	2022	35	分割プロパティファイルにフォルダが指定されている	21
	2023	36	分割プロパティファイルが複数指定されている	22
	2024	41	出力が XML 形式となる変換において、出力ファイルの 追記が指定されている	23
	2025	44	小数部ゼロ時出カオプションが固定長から XML への変 換以外の場合で指定されている	24

表 3-5 エラーコード一覧

第3章 変換実行 39

分類	コード		意味	番号
	Windows	Linux		
入出力エラー	3001	23	入力ファイルの読込に失敗した	25
	3002	24	入力データが異常	26
	3003	25	出力ファイルの書込に失敗した	27
	3006	37	分割プロパティファイルで指定されたファイルの読み 込みに失敗した	28
	3007	38	分割プロパティファイルが異常	29
	3008	39	入力ファイルの分割に失敗した	30
	3009	40	出力ファイルの結合に失敗した	31
	3010	42	ー時フォルダの作成に失敗した{作成に失敗したフォル ダのパス}	32
マッピング ファイルエラー	4001	28	マッピングファイルの読込に失敗した、または指定さ れたマッピングファイルが存在しない	33
	4002	29	マッピングファイルの記述内容に誤りがある	34
XML	5001	30	入力 XML のスキーマチェックに失敗した	35
スキーマエラー	5002	31	出力 XML のスキーマチェックに失敗した	36
その他エラー	6001	32	メモリ容量が不足しているため、強制終了した	37
	6002	33	実行中に Java の例外が発生した	38
	6003	43	排他ロック取得中に異常が発生した	39

3-4-2 エラーコード詳細

1 エラーコード 1001(Windows)、1(Linux)が発生した。

原因	対策
passfile が削除されてしまった。	『BizTran』を一度アンインストールし、再度インストー ルを行ってください。

2 エラーコード 1002(Windows)、2(Linux)が発生した。

原因	対策
passfile が破損している。	『BizTran』を一度アンインストールし、再度インストー ルを行ってください。

3 エラーコード 2001(Windows)、3(Linux)が発生した。

原因	対策
マッピングファイルが指定されていな	マッピングファイルは必須パラメータです。必ず指定し
い。	てください。

4 エラーコード 2002(Windows)、4(Linux)が発生した。

原因	対策
入力ファイル、または入力フォルダが指	入力ファイル、または入力フォルダは必須パラメータで
定されていない。	す。必ず指定してください。

5 エラーコード 2003(Windows)、5(Linux)が発生した。

原因	対策
入力ファイルとしてフォルダが指定され	フォルダオプション("/F")を指定しない場合は、入力とし
ている。	てファイルを指定してください。

6 エラーコード 2004(Windows)、6(Linux)が発生した。

原因	対策
入力フォルダとしてファイルが指定され	フォルダオプション("/F")を指定する場合は、入力として
ている。	フォルダを指定してください。

7 エラーコード 2005(Windows)、7(Linux)が発生した。

原因	対策
出力ファイル、または出力フォルダが指	出力ファイル、または出力フォルダは必須パラメータで
定されていない。	す。必ず指定してください。

第3章 変換実行 41

8 エラーコード 2006(Windows)、8(Linux)が発生した。

原因	対策
出力ファイルとしてフォルダが指定され	フォルダオプション("/F")を指定しない場合は、出力とし
ている。	てファイルを指定してください。

9 エラーコード 2007(Windows)、9(Linux)が発生した。

原因	対策
出力フォルダとしてファイルが指定され ている。	フォルダオプション("/F")を指定する場合は、出力として フォルダを指定してください。
出力フォルダが存在しない。	出力フォルダには、存在しているフォルダを指定してく ださい。

10 エラーコード 2008(Windows)、10(Linux)が発生した。

原因	対策
バージョン表示オプションと同時に他の	バージョン表示オプション("/VERSION")を指定する場
引数を指定している。	合、引数は"/VERSION"のみを指定してください。

11 エラーコード 2009(Windows)、11(Linux)が発生した。

原因	対策
処理別ログファイルとして、フォルダが	処理別ログファイルの出力先には、ファイルを指定して
指定されている。	ください。

12 エラーコード 2010(Windows)、12(Linux)が発生した。

原因	対策
処理別ログファイルが指定されていな い。	処理別ログファイルオプション("/L:"、"/LP:")を指定し た場合は、その直後に処理別ログファイルを出力するフ ァイルを指定してください。

13 エラーコード 2011 (Windows)、13 (Linux)が発生した。

原因	対策
引数の指定方法に誤りがある。	「3-2-1 バッチ起動・シェル起動」に記述されていない引 数は指定しないでください。

14 エラーコード 2012(Windows)、14(Linux)が発生した。

原因	対策
マッピングファイルが複数指定されてい る。	マッピングファイルは1つに限り、指定してください。

第3章 変換実行 42

15 エラーコード 2013(Windows)、15(Linux)が発生した。

原因	対策
入力ファイルまたはフォルダが複数指定	入力ファイル、またはフォルダは1つに限り、指定して
されている。	ください。

16 エラーコード 2014(Windows)、16(Linux)が発生した。

原因	対策
出力ファイルまたはフォルダが複数指定	出力ファイル、またはフォルダは1つに限り、指定して
されている。	ください。

17 エラーコード 2015(Windows)、17(Linux)が発生した。

原因	対策
処理別ログファイルが複数指定されてい る。	処理別ログファイルは1つに限り、指定してください。

18 エラーコード 2019(Windows)、21(Linux)が発生した。

原因	対策
XML 検証オプションの指定方法に誤りが	XML 検証オプション(/V:)の直後には、"YES"または"NO"
ある。	を指定してください。

19 エラーコード 2020(Windows)、22(Linux)が発生した。

原因	対策
XML 検証オプションが複数指定されてい る。	XML 検証オプション(/V:)は1つに限り、指定してください。

20 エラーコード 2021(Windows)、34(Linux)が発生した。

原因	対策
分割プロパティファイルが指定されてい	分割プロパティファイル指定("/D:")をした場合は、その直
ない。	後に分割プロパティファイルを指定してください。

21 エラーコード 2022(Windows)、35(Linux)が発生した。

原因	対策
分割プロパティファイルにフォルダが指 定されている。	分割プロパティファイルを正確に指定してください。

22 エラーコード 2023(Windows)、36(Linux)が発生した。

原因	対策
分割プロパティファイルが複数指定され ている。	分割プロパティファイルは1つに限り、指定してください。

第3章 変換実行 43

23 エラーコード 2024(Windows)、41(Linux)が発生した。

原因	対策
出力が XML 形式となる変換で、出力ファ	出力が XML 形式の場合、追記("/OP:")は指定できません。
イルの追記が指定されている。	出力ファイルを上書き("/O:")に指定を変更してください。

24 エラーコード 2025(Windows)、44(Linux)が発生した。

原因	対策
固定長から XML へ変換以外で、小数部ゼ	固定長から XML への変換以外は、小数部ゼロ時出力オプ
ロ時出力オプションが指定されている。	ション("/AD")を指定せずに変換を実行してください。

25 エラーコード 3001(Windows)、23(Linux)が発生した。

原因	対策
入力ファイルが存在しない。	存在する入力ファイルを指定してください。
他のアプリケーションで入力ファイルを 開いている。	入力ファイルを開いているアプリケーションを終了させ て変換を行ってください。
フォルダオプション指定時に、入力フォ ルダ内にファイルが存在しなかった。	フォルダオプション("/F")を指定する場合、入力フォルダ 内に最低1つはファイルがある状態で変換を行ってくだ さい。

26 エラーコード 3002(Windows)、24(Linux)が発生した。

原因	対策
入力データの形式が異常。	入力ファイルの内容が、マッピングファイルで入力デー タとして指定されている形式と一致しているか確認して ください。 固定長ファイルを変換の場合は XML の変換を行う前のフ ォーマットエラーログを参照し、固定長ファイルを修正 してください。
変換後 XML のタグ出現回数が異常。	XML に変換する際に、タグの出現回数が制限をこえてい る可能性があります。入力ファイルの内容を確認してく ださい。 詳細は「5-1-2 トラブルシューティング詳細」を参照して

27 エラーコード 3003(Windows)、25(Linux)が発生した。

原因	対策
出力ファイルが読み取り専用になってい	出力ファイルに書き込み許可の権限を付与してくださ
る。	い。
出力ファイルが他のアプリケーションか	出力ファイルを開いているアプリケーションを終了させ
ら開かれている。	て変換を行ってください。

28 エラーコード 3006(Windows)、37(Linux)が発生した。

原因	対策
分割プロパティファイルが存在しない。	存在する分割プロパティファイルを指定してください。

第3章 変換実行 44

29 エラーコード 3007(Windows)、38(Linux)が発生した。

原因	対策
分割プロパティファイルの内容が誤って いる。	分割プロパティファイルの内容が異常です。 弊社までお問い合わせください。問い合わせ先は、「5-3 お問い合わせについて」を参照してください。 その際に、バージョン・シリアル番号をお伝えくださ い。確認方法は、「5-2 バージョン・シリアル番号の確認 方法」を参照してください。

30 エラーコード 3008(Windows)、39(Linux)が発生した。

原因	対策
入力ファイルの分割ができない。	『BizTran』インストールフォルダ以下が、フォルダ作 成・ファイル作成のできないセキュリティ設定になって いる可能性があります。設定を変更してください。

31 エラーコード 3009(Windows)、40(Linux)が発生した。

原因	対策
出力ファイルの結合ができない。	『BizTran』インストールフォルダ以下が、フォルダ作 成・ファイル作成のできないセキュリティ設定になって いる可能性があります。設定を変更してください。
出力フォルダが存在しない。	存在するフォルダを指定してください。

32 エラーコード 3010(Windows)、42(Linux)が発生した。

原因	対策
一時フォルダの作成に失敗した。	『BizTran』インストールフォルダ以下が、フォルダ作 成・ファイル作成のできないセキュリティ設定になって いる可能性があります。設定を変更してください。

33 エラーコード 4001(Windows)、28(Linux)が発生した。

原因	対策
マッピングファイルが存在しない。	存在するマッピングファイルを指定してください。
マッピングファイルが他のアプリケーシ ョンから開かれている。	マッピングファイルを開いているアプリケーションを終 了してから、変換を行ってください。

34 エラーコード 4002(Windows)、29(Linux)が発生した。

原因	対策
マッピングファイルの内容が誤ってい る。	マッピングファイルの内容が異常です。 弊社までお問い合わせください。問い合わせ先は、「5-3 お問い合わせについて」を参照してください。 その際に、バージョン・シリアル番号をお伝えくださ い。確認方法は、「5-2 バージョン・シリアル番号の確認 方法」を参照してください。

第3章 変換実行 45

35 エラーコード 5001(Windows)、30(Linux)が発生した。

原因	対策
入力 XML と XML スキーマとの整合性が 合っていない。	変換元となる XML と XML スキーマとの整合性が合って いません。正しい XML に修正してください。
	詳細は「5-1-2 トラブルシューティング詳細」を参照して ください。

36 エラーコード 5002(Windows)、31(Linux)が発生した。

原因	対策
出力 XML と XML スキーマとの整合性が 合っていない。	変換元の固定長、または CSV のファイルのデータに必須 項目がセットされているか、項目は正規表現に対応して いるかを確認してください。 固定長を XML に変換した後のスキーマチェックエラーの 内容はログでは確認できないため、レイアウト定義を参 考に固定長ファイルを修正してください。 検証に失敗した変換後 XML は、「Windows: "インスト ールフォルダ¥Mapping¥ValidateNG"」または「Linux: "インストールフォルダ/Mapping/ValidateNG"」フォルダ 以下に退避されます。 詳細は「5-1-2 トラブルシューティング詳細」を参照して ください。

37 エラーコード 6001(Windows)、32(Linux)が発生した。

原因	対策
変換対象データが大きすぎる。	Windows 環境の場合は「4-1-1 使用メモリ設定」を、 Linux 環境の場合は「4-2-1 使用メモリ設定」を参照し、 『BizTran』で使用するメモリの量を増やしてください。

38 エラーコード 6002(Windows)、33(Linux)が発生した。

原因	対策
想定外の異常が発生した。	弊社までお問い合わせください。問い合わせ先は、「5-3 お問い合わせについて」を参照してください。 その際に、バージョン・シリアル番号をお伝えくださ い。確認方法は、「5-2 バージョン・シリアル番号の確認 方法」を参照してください。

39 エラーコード 6003(Windows)、43(Linux)が発生した。

原因	対策
同名ファイルへの出力処理に使用する一時 ファイルのオープンに失敗、または想定外 の異常が発生した。	弊社までお問い合わせください。問い合わせ先は、「5-3 お問い合わせについて」を参照してください。 その際に、バージョン・シリアル番号をお伝えくださ い。確認方法は、「5-2 バージョン・シリアル番号の確認 方法」を参照してください。

第4章 環境設定 46



環境設定

この章では、使用する環境に合わせた設定方法について説明します Windows 環境の場合は「4-1Windows の設定」を参照してください。 Linux 環境の場合は「4-2Linux の設定」を参照してください。

Windows の設定 4-1

Linuxの設定 4-2

第4章 環境設定 47

4-1 Windows の設定

4-1-1 使用メモリ設定

『BizTran』で大量データの変換を行うと、エラーコード 6001 のエラーが発生することがあります。(「3-4 エラーコ ード」参照)

変換の複雑度・データの量にもよりますが、Java の使用するメモリ量を増やすことによって、変換できる可能性が あります。

Java の使用するメモリ量の設定は、以下の手順で行います。

- ① "C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin¥Mapping2.bat"を、メモ帳などのテキストエディタで開きます。
- ② "MEMORY_SIZE"の値をより大きな値に変更し、保存します。

第4章 環境設定 48

@echo off

rem ----- BizTran DIRECTORY ------SET BIZTRAN_HOME=%~dp0¥..

rem ----- JAVA DIRECTORY -----SET BIZTRAN_JAVA_HOME=%BIZTRAN_HOME%¥..¥jre

rem ----- JAVA HEAP MEMORY SIZE ------SET MEMORY_SIZE=512M

rem ----- Proxy Param ------SET PROXY_HOST= SET PROXY_PORT=

rem ----- Class Path ------SET CLASSPATH="%BIZTRAN_HOME%¥lib¥BizTran.jar"

"%BIZTRAN_JAVA_HOME%¥bin¥java.exe" -Xms%MEMORY_SIZE% - Dhttp.proxyHost=%PROXY_HOST% -Dhttp.proxyPort=%PROXY_PORT% classpath %CLASSPATH% com.argo21.map.MappingProcessor2 %1 %2 %3 %4 %5 %6 %7 %8 %9 EXIT ERRORLEVEL

図 4-1 変更前

(前略)

rem ----- JAVA DIRECTORY -----SET BIZTRAN_JAVA_HOME=%BIZTRAN_HOME%¥..¥jre

rem ----- JAVA HEAP MEMORY SIZE ------SET MEMORY_SIZE=1024M

rem ----- Proxy Param ------SET PROXY_HOST= (後略)

図 4-2 変更例

🕑 HINT

- "MEMORY_SIZE"の値の目安は、ご使用のパソコンに搭載されているメモリの半分です。ただし、32bit 版をご利用の場合は、最大でも 1,536M バイトまでにしてください。1,536M を超える場合は、起動に失敗する可能性があります。
- "MEMORY_SIZE"の値を最大まで増やしても変換に失敗する場合は、入力データを複数ファイルに分割すること をご検討ください。

第4章 環境設定 49

4-2 Linux の設定

4-2-1 使用メモリ設定

『BizTran』で大量データの変換を行うと、エラーコード 32 のエラーが発生することがあります。(「3-4 エラーコード」参照)

変換の複雑度・データの量にもよりますが、Java の使用するメモリ量を増やすことによって、変換できる可能性が あります。

Java の使用するメモリ量の設定は、以下の手順で行います。

- ① "/opt/BizTran/Mapping/bin/Mapping2.sh"を、メモ帳などのテキストエディタで開きます。
- ② "MEMORY_SIZE"の値をより大きな値に変更し、保存します。

第4章 環境設定 50

#!/bin/sh

BizTean のインストールフォルダ SHELL_HOME=`dirname \$0` BIZTRAN_HOME=\${SHELL_HOME}/...

BizTran で使用する java 指定 BIZTRAN_JAVA_HOME=\${BIZTRAN_HOME}/../jre

メモリサイズ指定 MEMORY_SIZE=512M

プロキシ指定 PROXY_HOST= PROXY_PORT=

クラスパス CLASSPATH=\${BIZTRAN_HOME}/lib/BizTran.jar

実行

\${BIZTRAN_JAVA_HOME}/bin/java -Xms\${MEMORY_SIZE} -Xmx\${MEMORY_SIZE} Dhttp.proxyHost=\${PROXY_HOST} -Dhttp.proxyPort=\${PROXY_PORT} -classpath \${CLASSPATH}
com.argo21.map.MappingProcessor2 \$1 \$2 \$3 \$4 \$5 \$6 \$7 \$8 \$9

図 4-3 変更前

#!/bin/sh

BizTean のインストールフォルダ SHELL_HOME=`dirname \$0` BIZTRAN_HOME=\${SHELL_HOME}/...

BizTran で使用する java 指定 BIZTRAN_JAVA_HOME=\${BIZTRAN_HOME}/../jre

メモリサイズ指定 MEMORY_SIZE=1024M

後略

図 4-4 変更例

🕑 HINT

● "MEMORY_SIZE"の値の目安は、ご使用のパソコンに搭載されているメモリの半分です。

● "MEMORY_SIZE"の値を最大まで増やしても変換に失敗する場合は、入力データを複数ファイルに分割すること をご検討ください。

XML 変換ツール(BizTran) 第5章 困ったときには 51

第5章

困ったときには

この章では、トラブルシューティング、バージョン及びシリアル番号の確認方法、 お問い合わせについて説明します。

- トラブルシューティング 5-1
- バージョン・シリアル番号の確認方法 5-2
 - お問い合わせについて 5-3

5-1 トラブルシューティング

5-1-1 トラブルシューティング一覧

『BizTran』使用時に発生するトラブルとその解決方法について説明します。

トラブルが発生した場合は、まずこちらを参照して原因を追究してください。

図 5-1 トラブルシューティング一覧

分類	トラブル内容	番号
1. インストール	インストールに失敗した。	1-1
2. 起動	『BizTran』が起動しない。	2-1
3. 変換	複数ファイルを変換すると、最後の変換結果しか出力されない。	3-1
	「3002(Windows)、24(Linux)」のエラーが発生した。	3-2
	「5001(Windows)、30(Linux)」のエラーが発生した。	3-3
	「5002(Windows)、31(Linux)」のエラーが発生した。	3-4
4. ログファイル	累積ログファイルが出力されない。	4-1
	処理別ログファイルが出力されない。	4-2

第5章困ったときには 53

5-1-2 トラブルシューティング詳細

- 1 インストール
- 1-1 インストールに失敗した。

原因	対策
インストール権限がない。	管理者権限を持ったユーザでインストールを行ってくだ さい。
ディスク容量が不足している。	不要なファイルやアプリケーションを削除した上で、再 度インストールを行ってください。
32bitOS に 64bit 版の『BizTran』をインス トールしようとしている。	32bit 版の『BizTran』のインストーラを使用してください。

2 起動

2-1 『BizTran』が起動しない。

『BizTran』を起動した際に、リターンコードとして「3-4 エラーコード」にない値が返された場合、『BizTran』の起動に失敗している可能性があります。

原因	対策
Java 実行環境が破損している。	『BizTran』の再インストールを行ってください。
メモリ割り当てに失敗した。	Windows 環境の場合は「4-1-1 使用メモリ設定」を、 Linux 環境の場合は「4-2-1 使用メモリ設定」を参照し、 設定したメモリサイズを小さくしてください。

3 変換

3-1 複数ファイルを変換すると、最後の変換結果しか出力されない。

出力ファイルを上書きで指定した場合は、上書きされます。

原因	対策
フォルダオプションを指定し、出カファ イルの指定が上書きになっている。	出力ファイルが CSV または固定長形式で、出力ファイル を追記で指定した場合は、変換した内容が、元のファイ ルの内容の後に追記されます。

第5章 困ったときには 54

3-2 「3002(Windows)、24(Linux)」のエラーが発生した。

エラーコード「3002(Windows)、24(Linux)」が発生した場合の対処は、以下を参考にしてください。

主なエラー原因として以下の3種類が挙げられます。ご確認の上、マッピングファイルの指定、または入力ファイルのデータを修正してください。

■変換に使用するファイルのメッセージ種名に誤りがある。

マッピングファイルと入力ファイルのメッセージ種が一致しているか確認してください。

マッピングファイル名の先頭がメッセージ種名を表します。今回の例では「Order」になりますので、メッセージ種 名は発注になります。

■ 入力ファイルのファイル形式に誤りがある。

マッピングファイルと入力ファイルのファイル形式が一致しているか確認してください。

マッピングファイル名のメッセージ種の後の「<XXX>to<YYY>」が変換方向を表し、「<XXX>」が変換前のファイル 形式を表しています。今回の例では「FIX」になりますので、ファイル形式は固定長になります。

■ 入力ファイルの文字コードに誤りがある。

メッセージ種名、ファイル形式に問題がない場合は、入力ファイルの文字コードが正しいか確認してください。ファ イル形式が固定長の場合は文字コードとして SHIFT_JIS、XML 形式の場合は UTF-8 であることを確認して下さい。

第5章 困ったときには 55

3-3 「5001(Windows)、30(Linux)」のエラーが発生した。

エラーコード「5001(Windows)、30(Linux)」が発生した場合の対処は、以下を参考にしてください。

Biz Tran [2017/09/22 10:4	48:35] <異常終了>
====================================	
マッピングファイル : D:¥	∉sample¥sample.map
入力ファイル : D:¥	finput ¥testdata.xml
変換補助ファイル :	
分割プロパティファイル :	
出力ファイル : D:¥	éoutput ¥testdata.csv
分割変換時入力ファイル :	
分割変換時出力ファイル :	
パラメータ :	
メッセージ :入力	カ XML のスキーマチェックに失敗しました。(1)
8行目 cvd	c-pattern-valid: Value '201708NG' is not facet-valid with respect to
pattern '20([0-9]{2}((0[13578]]1[02 2][0-8][19)) ([02468][048][[13579][2])(0[1-9] [1-2][0-9] 3[01]) (0[469] 11)(0[1-9] [1-2][0-9] 30) 02(0[1-9] [1- 26])0229) for type 'Date'.
8 行目 cvc	c-type.3.1.3: The value '201708NG' of element 'dataCreatedDate' is
not valid.	

ログファイルに出力されるエラーメッセージ①~③の読み方について説明します。

番号	値	詳細
1	Value '201708NG'	タグの内容として「201708NG」が異常であることを 示します。
2	pattern '20([0-9]{2}((0[13578] 1[02])(0[1-9] [1-2][0- 9] 3[01]) (0[469] 11)(0[1-9] [1-2][0-9] 30) 02(0[1- 9] [1-2][0-8] 19)) ([02468][048] [13579][26])0229)'	①の「201708NG」が、左記の正規表現に一致してい ないことを示します。
3	element 'dataCreatedDate'	①の「201708NG」のタグ名が「dataCreatedDate」で あることを示します。

以上の場合において、エラーの原因となる箇所及び内容、対処方法について以下の表に示します。

エラー箇所	XML ファイル内の <datacreateddate>タグのうち、内容が「201708NG」に該当する箇所。</datacreateddate>
エラー内容	「201708NG」が正規表現「20([0-9]{2}((0[13578] 1[02])(0[1-9] [1-2][0-9] 3[01]) (0[469] 11)(0[1- 9] [1-2][0-9] 30) 02(0[1-9] [1-2][0-8] 19)) ([02468][048] [13579][26])0229)」に一致していません。 上記の正規表現は日付(YYYYMMDD)を意味します。
対処方法	手順 1. 出力ファイル形式に応じたレイアウト定義を参照し、「dataCreatedDate」における値 の適切な表記を確認します。
	手順 2. 入力 XML のファイルにおいて「dataCreatedDate」のタグのうち内容が「201708NG」 である箇所を検索します。
	手順3. 手順2に該当する箇所を、入力ファイルより検索し、エラー内容に従って修正します。

第5章 困ったときには 56

3-4 「5002(Windows)、31(Linux)」のエラーが発生した。

エラーコード「5002(Windows)、31(Linux)」が発生した場合の対処は、以下を参考にしてください。

異常終了した場合(Dログ
Biz Tran [2	
	: 5002
マッピングファイ ¥PackageShipmen	ル : C:¥NTS¥JX-Client¥conf¥master¥mapping¥secondGenEDI¥1.3.1 tNotification¥PackageShipmentNotification_CSVtoXML_Ver1.3.1.map
入力ファイル 付 csy 113726 03 y	:C:¥NTS¥JX-Client¥tran¥data¥20170817¥work¥IZMIYA_出荷梱包紐 wrk
変換補助ファイル	
分割プロパティフ ¥PackageShipmen	アイル : C:¥NTS¥JX-Client¥conf¥master¥mapping¥secondGenEDI¥1.3.1 tNotification¥PackageShipmentNotification_CSVtoXML_Ver1.3.1 div
出力ファイル 付.csv.113726.03.3	:C:¥NTS¥JX-Client¥tran¥data¥20170817¥work¥IZMIYA_出荷梱包紐 331
分割変換時入力フ	アイル :
分割変換時出力フ	アイル :
ハラメータ メッセージ	: : 出力 XML のスキーマチェックに失敗し <u>ました。</u> (1)
	2 行目 cvc-pattern-valid Value '5511400' is not facet-valid with respect to
pattern '[¥p{Nd}¥p{	Lu}¥p{Ll} ¥- ()]{8}' (2)
is not valid.	2 行目 cvc-type.3.1.3: The value '5511400' of element 'senderStationAddress'

ログファイルに出力されるエラーメッセージ①~③の読み方について説明します。

番号	値	詳細
1	Value '5511400'	タグの内容として「5511400」が異常であることを示します。
2	pattern '[¥p{Nd}¥p{Lu}¥p{Ll} ¥- ()]{8}'	①の「5511400」が、正規表現「[¥p{Nd}¥p{Lu}¥p{Ll} ¥- ()]{8}」の パターンに一致していないことを示します。
3	element 'senderStationAddress'	①の「5511400」のタグ名が「senderStationAddress」であること を示します。

以上の場合において、エラーの原因となる箇所及び内容、対処方法についてそれぞれ以下の表に示します。

エラー箇所	XML ファイル内の <senderstationaddress>タグのうち、内容が「5511400」に該当する箇所。</senderstationaddress>
エラー内容	「5511400」が正規表現「[¥p{Nd}¥p{Lu}¥p{Ll} ¥- ()]{8}」のパターンに一致していません。 ※下記、HINT を参照してください。
対処方法	手順 1. 退避された XML ファイルを参照し、 <senderstationaddress>タグのうち、内容が 「5511400」である箇所を検索します。</senderstationaddress>
	手順2. 手順1に該当する箇所を、入力ファイルより検索し、エラー内容に従って修正します。

第5章 困ったときには 57

🕑 HINT

- [¥p{Nd}¥p{Lu}¥p{Ll}|¥-|(|)]{8}
- 8桁の文字列を意味します。

• ¥d{1,13}

¥dは10進数を意味し、{}内は1が最小桁数、13が最大桁数の範囲を意味します。

4 ログファイル

4-1 累積ログファイルが出力されない。

原因	対策
累積ログ格納フォルダに書き込み権限が 無い。	「Windows : "C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥Log"」または 「Linux : "/opt/BizTran/Mapping/Log"」の累積ログ格納フ ォルダに書き込み権限を付与してください。

4-2 処理別ログファイルが出力されない。

原因	対策
処理別ログファイルのファイルパスを間	処理別ログファイルのファイルパス名に使用できない文
違えている。	字が使われていないか確認してください。
処理別ログファイルの出力先フォルダに	処理別ログファイルを格納する任意の出力先フォルダに
書き込み権限が無い。	書き込み権限を付与してください。

5-2 バージョン・シリアル番号の確認方法

5-2-1 Windows の確認方法

『BizTran』のバージョンとシリアル番号の確認は、以下の手順で行います。

- "C:¥NTS¥BizTran¥Mapping¥bin"をエクスプローラで開き、"MappingVersion.bat"をダブルクリックして実行します。
- ② バージョンとシリアル番号がコマンドプロンプト画面に表示されますので、それを確認してください。

※ シリアル番号は図中の網掛け部分に表示されます。

📧 選択C:¥Windows¥system32¥cmd.exe	—		\times
openjdk version "1.8.0_141-1-ojdkbuild" OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0 141-1-o	idkbu	ild-b16	
OpenJDK Server VM (build 25.141-b16, mixed mode)			
BizTran (C)2003-2017 Canon IT Solutions Inc. All Right Re Version <u>4.4.6</u>	eserve	ed.	
Serial No			~

図 5-2 パージョン・シリアル番号の表示例(32bit版)

📧 選択C:¥Windows¥system32¥cmd.exe	—		×
openjdk version "1.8.0_141-1-ojdkbuild" OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_141-1-oj OpenJDK 64-Bit Server VM (build 25.141-b16, mixed	dkbui I mode	d-b16 ;)	
BizTran (C)2003-2017 Canon IT Solutions Inc. All Right Re Version <u>4.4.6</u>	serve	d.	
Serial No			~

図 5-3 バージョン・シリアル番号の表示例(64bit版)

お問い合わせの際には、バージョン・シリアル番号をお伝えください。

(「5-3 お問い合わせについて」参照)

第5章 困ったときには 59

5-2-2 Linux の確認方法

『BizTran』のバージョンとシリアル番号の確認は、以下の手順で行います。

① コンソールを開き、以下のコマンドによりディレクトリ移動及びシェルを実行します。

🕑 HINT

● 上記のコマンドの例は PC 上でコピーや貼り付けをすることは可能ですが └┘ (半角スペース)は書き換えて実行 してください。

② バージョンとシリアル番号が画面に表示されますので、それを確認してください。

※ シリアル番号は図中の網掛け部分に表示されます。

root@vm617:/opt/BizTran/Mapping/bin	-		×
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)			
<pre>[root@vm617 ~]# cd /opt/BizTran/Mapping/bin [root@vm617 bin]# ./MappingVersion.sh openjdk version "1.8.0_141" OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_141-b16) OpenJDK 64-Bit Server VM (build 25.141-b16, mixed</pre>	mod	le)	
BizTran (C)2003–2017 Canon IT Solutions Inc. All Right Res Version 4.4.6 Serial No [root@vm617 bin]#	erv	red.	

図 5-4 バージョン・シリアル番号の表示例

お問い合わせの際には、バージョン・シリアル番号をお伝えください。

(「5-3 お問い合わせについて」参照)

5-3 お問い合わせについて

本製品に関するお問合せは、有償保守サービスにご加入のお客様を対象としてサポートセンターにて、専任のサポー ト要員が対応します。

5-3-1 お問い合わせ方法

サポートセンターでは、FAX・ホームページ・電話のいずれかの方法でお問合せを受け付けています。それぞれのお 問合せ方法については、別途お送りしている書面に記載されていますのでそちらをご確認ください。尚、お問合せ受 付時には製品名・バージョン・シリアル番号が必要になります。

5-3-2 有償保守サービスとは

有償保守サービスに加入するには、

・「年間保守サービスパック」のご購入

・「保守契約」の締結

の2種類の方法があります。お問い合わせの際は有償保守サービスにご加入されているかどうかをご確認ください。 どちらを利用して有償保守サービスにご加入されたかは、製品を購入された時期及びその構成により異なります。

5-3-3 有償保守サービスの加入方法

既に製品をご購入のお客様でも、有償保守サービスにご加入いただくことが可能です。

詳しくは、<u>https://www.canon-its.co.jp/products/edi_master/support/detail/service_pack.html</u>をご覧ください。

第6章 付録 61





この章は、OS ごとの操作方法を説明します。

OS ごとの操作方法 6-1

第6章 付録 62

6-1 OS ごとの操作方法

Windows の [スタート] は、キーボードの【Windows】キーで開きます。

6-1-1 コントロールパネル

本製品をアンインストールする上で手順が分からない場合は、以下を参考に操作を行ってください。

※ コントロールパネルの表示方法は「クラシック表示」または「小さいアイコン」を選択してください。

■ Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

[スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムと機能]の順に操作してください。

■ Windows 8.1 / 10、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016 の場合

キーボードの【Windows】キー+"X"を同時に押し、表示されたメニューの[コントロールパネル] - [プログラムと機能]の順にクリックしてください。

6-1-2 コマンドプロンプト

各 OS におけるコマンドプロンプトの起動は、以下を参考に行って下さい。

※ 「ユーザアカウント制御」のダイアログが表示された場合は、【続行(C)】(または【はい(Y)】)をクリックして ください。

■ Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] を右クリックして、 【管理者として実行(A)】をクリックします。

■ Windows 8.1 / 10、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016 の場合

キーボードの【Windows】キー+"X"を同時に押し、表示されたメニューの [コマンドプロンプト(管理者)(A)] をクリックします。

おことわり

- 本プログラム及び、本取扱説明書の内容の一部または全部を無断で複製、改変する事は法律により禁止 されています。
- 本プログラム及び、本取扱説明書の内容は予告なしに変更される事がありますので、ご了承ください。
- 本プログラム及び、本取扱説明書の内容には万全を期しておりますが、運用結果については責任を負い 兼ねますのでご了承願います。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

『XML 変換ツール(BizTran) 取扱説明書』

第4.4-04版 2018年3月

発行者:

キヤノンITソリューションズ株式会社

〒140-8526

東京都品川区東品川2-4-11